

令和2年度「進行管理表」の進捗状況及び評価（一覧表）

経営目標 I 社会貢献の加速

【】：前年度評価（【-】は前年度無かった項目）

取組	KPI 重要業績評価指標	令和2年度の進捗状況	評価
①自然エネルギー導入の加速			
市町村等における小水力発電の事業化の支援【事業推進課】			
1	・小水力発電の市町村等へのプッシュ式導入支援 市町村等による事業化	・美馬市及び上勝町と協働して小水力発電の導入を検討した結果、環境省の補助金を活用し、発電した電気を近隣の公共施設へ自営線で供給することにより、平時の自家消費のみならず、災害時にも活用できる形態の事業化プランを策定したところ、配電線の規制強化等の新たな課題が発生し、市町と継続検討が必要となった。 【実績】事業化プランの策定：R2 計画策定	B 【-】
自然エネルギー関連技術の支援【事業推進課】			
2	・市町村・民間等への技術支援 市町村・民間等への相談窓口による技術支援	・民間事業者3者に対して小水力発電に関する情報提供を行った。 【実績】情報提供、普及促進：R2 3者	A 【A】
	関係部局と連携し、市町村・民間等向け説明会の実施 毎年実施	・市町村向け説明会（県・市町村再生可能エネルギー連絡協議会）は新型コロナウイルス感染拡大防止の観点から開催中止となったが、会議資料を参加対象者に送付することで、自然エネルギーの導入支援を実施した。 【実績】説明会：R2 1回（資料送付）	B 【B】

取組	KPI 重要業績評価指標	令和2年度の進捗状況	評価
②「既存ストックの有効活用」と「政策連携」による地方創生への貢献			
スマート回廊を核とした地域振興【経営企画戦略課、施設基盤整備室、総合管理推進センター】			
3	・カヌー・SUP等の湖面スポーツに親しめる環境整備 カヌー・SUPの拠点整備	・R1年7月に策定した川口ダム湖畔活性化構想に基づき、カヌー・SUP拠点整備事業である川口ダム自然エネルギーミュージアム第2駐車場改修の詳細設計及び建築設計に着手した。	A 【A】
4	・地域の観光資源を活用したニューツーリズムの創出 地域と連携したツーリズム実施数 5回以上/年	・スマート回廊施設見学会は、R2年度は6月28日から3月28日まで8回実施した。 ・10月10日に「徳島の魅力発見インフラツーリズム（県主催）」の参加者20名に対し、施設見学の対応を行った。 【実績】ニューツーリズム：R2 9回実施	A 【A】
5	・日本科学未来館、あすたむらんど等との連携 企画展示数 5回以上/年	・4月6日から5月31日までの日程で、全国科学館連携協議会の協力により「～新しい感染症との向き合い方～わからないよね新型コロナ」を開催、165名が観覧した。（その他の企画展示を含め合計4回実施） ・8月22日、29日にエネ・ミュージッククラブ活動として、全国科学館連携協議会とマブチモーターから提供を受けたモーターを使用した工作を行い、12名が参加した。（その他の工作を	A 【A】

			<p>含め合計4回実施)</p> <ul style="list-style-type: none"> 9月6日に日本科学未来館より学習資料の提供を受け、遠隔会議アプリZoomを用いて、発電やエネルギーについて遠隔授業を行い、54名が参加した。 10月3日にあすたむらんどから講師を招き星空観望会を行い、13名が参加した。(秋と冬の合計2回実施) <p>【実績】企画展示等：R2 11回実施</p>	
森づくりの支援 【経営企画戦略課】				
6	<ul style="list-style-type: none"> ダム水源地での地域が進める森づくりを支援 	<p>公有林化支援面積(累計)</p> <p>◎ 682ha</p> <p>◎ 782ha</p>	<ul style="list-style-type: none"> 水力発電事業に係る県営発電所が所在する町において、公有林化を促進し、良質な水資源の確保を図るとともに、地域の環境整備や地域貢献に資するため「ダム水源の森を守り育てる事業」を実施した。 事業実施内容 予算額：R2 50,000千円 内 容：川口ダム又は棚野ダムの上流域の森林で、間伐等の適切な管理ができていない又は今後この恐れのある森林、町道又は林道沿いで風水害発生時の倒木により、集落の孤立や電線の寸断等の影響が懸念される森林を対象として、次に掲げる事業に対し補助金を交付する。 <ol style="list-style-type: none"> 公有林化取得支援事業 森林整備等支援事業 森づくりの周知・啓発支援事業 その結果、那賀町等が実施した102haの公有林化を支援した。 <p>【実績】公有林化支援面積：R2 102ha、累計 672ha</p>	B 【C】
7	<ul style="list-style-type: none"> 町等が実施する森林の間伐・植林等を支援 	<p>森林整備(間伐・植林等)支援面積</p> <p>80ha以上/年</p>	<ul style="list-style-type: none"> No.6「ダム水源の森を守り育てる事業」における「森林整備等支援事業」に対し、補助金を交付することにより、那賀町等が108haの森林整備を実施した。 <p>【実績】森林整備支援面積：R2 108ha</p>	A 【一】
8	<ul style="list-style-type: none"> 企業局の森づくりを情報発信 	<p>「エネ・ミューの森」等でのイベント実施数</p> <p>3回以上/年</p>	<ul style="list-style-type: none"> H29年度に取得、整備した森林体験エリアを活用し、10月17日及び10月31日に「とくしま自然エネルギー探検隊秋のバスツアー」において間伐体験を実施した結果、36名の参加があった。 11月3日に「秋の間伐体験」の中で、同エリアを利用し間伐体験やバイオマス発電を実施した。 同エリアに東屋を整備した。 <p>【実績】イベント実施数：R2 3回実施</p>	A 【A】
地域振興の事業支援 【経営企画戦略課】				
9	<ul style="list-style-type: none"> 水源地域で実施する地域の魅力づくりや環境保全事業を支援 	<p>支援団体数</p> <p>15団体以上/年</p>	<ul style="list-style-type: none"> 「電気事業に係る施設」が所在する町において行われる、地域の活力や魅力づくり等の推進活動、環境教育及び環境保全活動を支援する「ダム水源地サポート事業」を実施した。 事業実施内容 予算額：R2 5,500千円 内 容：県営発電所等が所在する町及びその水源地域(美波町は赤松地区に限る)で実施される次に掲げる事業 I型 (1)水源地域におけるイベント等の実施により、地域の活性化及びインバウンドの推進を図る事業 II型 (1)ダム及び河川の保全に寄与する事業 (2)自然エネルギー及び環境保全学習を通して、次世代を担う人材育成を推進する環境教育事業 I型9団体、II型で2団体の合計14団体に補助金の交付決定を行った。 <p>【実績】支援団体数：R2 14団体</p>	B 【A】

ダム水源地域の河川環境改善 【施設基盤整備室】				
10	<ul style="list-style-type: none"> 陸封アユの稚魚放流及び汲み上げ放流等の実施 	河川環境改善策の検証・再構築	<ul style="list-style-type: none"> 陸封アユ及び効果的な魚道について徳島大学と共同研究を行った。 陸封アユの稚魚を試験放流し、その生息状況の調査を行うとともに、アユの産卵に適した河川環境を構築するため、産卵場の整備を行った。 効果的な魚道の研究として、川口ダム直下で汲み上げ放流を実施した。 川口ダム上流域での河川環境改善に関し、地域振興に繋がる事業として再構築を図った。 	A 【A】

取組	KPI 重要業績評価指標	令和2年度の進捗状況	評価
----	-----------------	------------	----

③戦略的な情報発信の推進

ケーブルテレビなどの各種媒体の活用 【経営企画戦略課、総合管理推進センター】

11	<ul style="list-style-type: none"> 各種メディアを活用した情報発信 ケーブルテレビ ホームページ フェイスブック ツイッター インスタグラム You Tube PV (4K) 等 	ホームページの適時更新、フェイスブック等による情報発信	<ul style="list-style-type: none"> ホームページの内容を適時更新したほか、ケーブルテレビで川口エネ・ミューを広報した。 You Tubeにて「川口エネ・ミューチャンネル」を開設した。 	A 【一】
		年50回以上	<ul style="list-style-type: none"> ケーブルテレビでのミュージアムCM放送やフェイスブック等による情報発信を適宜行った。 <p>【実績】 記事掲載回数：R2 51回 アクセス数：R2 Facebook 12,104件、Twitter 112,562件 R1 Facebook 14,146件、Twitter 60,918件</p>	A 【A】

県民理解の促進 【経営企画戦略課、事業推進課、施設基盤整備室、総合管理推進センター】

12	<ul style="list-style-type: none"> 川口エネ・ミューを活用した見学会、学習ひろばや県政バス等の実施 	川口エネ・ミュー年間延べ体験者数 R2 17,800人 R3 18,100人	<ul style="list-style-type: none"> 企業局事業や、自然エネルギーに対して県民の理解を得るため、ダムや太陽光発電施設等の見学会や学習会を行った。 10月17日と10月31日に「とくしま自然エネルギー探検隊秋のバスツアー」の中で、同エリアを利用し間伐体験を実施し、36名が参加した。 新型コロナウイルス感染症対策として、一時休館を行ったほか、魅力発信力のあるデジタルアート設備の一時休止や工作・実験教室等のイベントを中止したことにより、体験者数の未達に大きく影響した。 今後、ICT授業を活用し、水素を初めとする多様な自然エネルギーの学習機会を創出する。 <p>【実績】 川口エネ・ミュー入館者数：R2 6,535人 累計70,029人</p>	C 【A】
13	<ul style="list-style-type: none"> 県内小中学校での出前授業(アウトリーチ)の実施 	環境学習などの出前授業の実施 15回以上/年	<ul style="list-style-type: none"> 環境や自然エネルギーの大切さを学ぶとともに、ミュージアムの入館者へ繋げるため、徳島県内の小学校及び学童クラブなどで出前授業を行ったが、新型コロナウイルス感染症の感染拡大により、当初の計画どおり実施できなかった。 <p>【実績】 出前授業：R2 12回開催 参加者309人</p>	B 【A】
14	<ul style="list-style-type: none"> 企業局の森づくりを情報発信【再掲、No.8】 	「エネ・ミューの森」等でのイベント実施数 3回以上/年	<ul style="list-style-type: none"> H29年度に取得、整備した森林体験エリアを活用し、10月17日及び10月31日に「とくしま自然エネルギー探検隊秋のバスツアー」において間伐体験を実施した結果、36名の参加があった。 	(A) 【A】

			<ul style="list-style-type: none"> ・11月3日に「秋の間伐体験」の中で、同エリアを利用し間伐体験やバイオマス発電を実施した。 ・同エリアに東屋を整備した。 <p>【実績】 イベント実施数：R2 3回実施</p>	
15	<ul style="list-style-type: none"> ・工事現場の進捗状況や施設紹介 	<p>ホームページ、フェイスブック等による情報発信 年10回以上 ※No. 11の内数</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・事前復興の取組としての工業用水管路耐震化工事の状況など、各種工事の情報発信を行った。 <p>【実績】 記事掲載回数：R2 10回</p>	A 【A】

経営目標 2 安全安心の確保

取組	K P I 重要業績評価指標	令和2年度の進捗状況	評価
④南海トラフ巨大地震・活断層地震、老朽化対策及び事前復興の取組			
南海トラフ巨大地震対策の加速 【施設基盤整備室、経営企画戦略課、総合管理推進センター】			
16	・工業用水道管路の耐震化 緊急性の高い管路 8.4kmの整備 R2 86% R3 90%	・吉野川北岸工業用水道の今切配水本管(578m)の耐震化が完成。(今切配水本管(φ700)L=1,980m完) これにより、8.4kmのうち7.2kmの整備が完了した。 ・吉野川北岸工業用水道の今切第一配水支管の布設替工事に着手した。(R2:369.5m) 【実績】進捗率: R2 86%	A 【A】
17	・工業用水の代替水確保のための他利水管との連携	農水管との連結施工箇所数 R2 3箇所 ・中国四国農政局が実施する農地防災事業の進捗に合わせ、工業用水道管路に農水管との連結口設置工事に着手した。 【実績】進捗率: R2 3箇所	A 【一】
18	・浄水場浸水対策の集中実施	浸水対策の実施 ・吉野川北岸工業用水道の浄水場において、管理本管、配水ポンプ所の浸水対策工事を実施した。排泥弁室等の設計を実施した。	A 【一】
活断層地震への対策 【施設基盤整備室、経営企画戦略課、総合管理推進センター】			
19	・活断層地震等に対応するための防災備蓄倉庫等の整備	防災備蓄倉庫等の整備 ・吉野川北岸工業用水道浄水場の防災備蓄倉庫の増設工事が完成した。	A 【A】
施設等の耐震化の着実な推進 【事業推進課、施設基盤整備室、総合管理推進センター】			
20	・土木構造物の耐震化への集中投資、新たな対応の検討	日野谷発電所、川口ダム施設の耐震化の実施 ・耐震化が完了していない川口ダム洪水吐ゲート、ピア(門柱)について、R元年度末に実施時期と方法を決定し、継続検討を行った。 (R7年度の発電機オーバーホール後に川口ダム付属施設の耐震化対策を実施予定)	A 【A】
計画的な老朽化対策 【経営企画戦略課、事業推進課、施設基盤整備室、総合管理推進センター】			
21	・集中投資期間後における計画的な管路の老朽度評価	管路更新優先度評価の実施 ・R3年度の管路更新優先度評価に向け、阿南工水において、辰巳配水支管他布設替基本設計業務を発注した。	A 【A】
22	・長期工事計画の策定(見直し)及び計画に基づく設備更新	電気、工水、駐車場事業の長期工事計画の見直し(2年ごと) ・「電気事業」について、長期工事計画の見直しを行い、R3年度からR12年度までの10ヶ年の長期工事計画を策定した。(工業用水道・駐車場事業は、R1年度に策定済み)	A 【A】
	設備の更新	長期工事計画に基づき、実施した主な内容 ・電気事業では、日野谷発電所において水車発電機の改良及び内部点検手入れ工事を施工し、新品時の性能復元を図った。また、軸受を「メタル製」から「樹脂製」に変更することで、耐摩耗性及び保守性を向上させ、設備の信頼性向上につなげた。 ・吉野川北岸工業用水道では今切配水本管の耐震化を実施した(延長918m(R1~R2))。 ・R1年度工業用水道事業長期工事計画を踏まえ、新たに設置した検討会において経営改善策を検討した。今後、その結果をR3年度計画へ反映する。 ・藍場町地下駐車場では経営に支障をきたさないよう、老朽化した泡消火設備配管取替をH30年度から区画ごとに4ヶ年で実施している。	A 【A】

取 組	K P I 重要業績評価指標	令 和 2 年 度 の 進 捗 状 況	評 価	
⑤危機管理体制の強化				
連続地震を見据えたBCP等の見直しと各種訓練・研修の実施 【経営企画戦略課、事業推進課、施設基盤整備室、総合管理推進センター】				
23	・BCP、応援協定等の見直し	新たな災害に対応したBCP等の見直し	<ul style="list-style-type: none"> 企業局タスクフォースで「企業局事業継続計画（BCP）」の対策内容及び計画の見直し並びに公表版の案を検討した。その結果、所要の改定を行いホームページで公表した。 企業局タスクフォースで「企業局新型インフルエンザ等対策事業継続計画」の対策内容及び計画の見直し案を検討し、改定した。 	A 【A】
24	・防災・事故復旧、メガソーラー電力を活用した訓練及び研修の実施	訓練・研修の実施 5回以上/年	<ul style="list-style-type: none"> 以下の各種防災・事故復旧訓練を実施した。 <ul style="list-style-type: none"> ○防火防災訓練（6/11 消火設備取扱訓練・自衛消防訓練、11/25 オイルフェンス敷設訓練（川口）） ○9/11 工業用水道管路想定故障事例研修（書面実施） ○12/21 給水車による緊急給水訓練を実施 ○1/15 徳島県図上訓練に合わせた相互応援協定に基づく支援要請訓練 「災害時における和田島太陽光発電所の電力供給に関する協定」に基づき、小松島市と訓練を実施した。 <ul style="list-style-type: none"> ○1/15 電力供給要請の情報伝達訓練 ○1/28 電力供給訓練（自立運転切替操作） <p>【実績】訓練・研修会：R2 7回実施</p>	A 【A】
発災時の応援協定等を有効に機能させるための訓練の実施 【経営企画戦略課、施設基盤整備室、総合管理推進センター】				
25	・四国4県及び鳥取県との相互応援協定、建設業及び設備業協会との応急復旧工事協定の活用	訓練の実施 2回以上/年	<ul style="list-style-type: none"> 1/15の徳島県図上訓練に合わせ、建設業及び設備業協会との応急復旧協定に基づく支援要請訓練を実施した。 1/18に徳島県図上訓練に合わせ、鳥取県との相互応援協定に基づく支援要請訓練を実施した。 新型コロナウイルス感染症まん延防止のため、四国4県の相互応援協定に基づく訓練は、実施しなかった。 <p>【実績】訓練：R2 2回実施</p>	A 【A】
湧水対策の推進 【経営企画戦略課、事業推進課、施設基盤整備室、総合管理推進センター】				
26	・地下水送水設備の長寿命化対策	計画的な設備等の修繕等	<ul style="list-style-type: none"> 老朽化した設備の計画的な修繕等を実施した。（R2：第1地下水送水流量計取替、第2地下水計装設備保守） 老朽化した設備の修繕等を計画を策定した。 <ul style="list-style-type: none"> R3：第2地下水揚水ポンプ取替 R4：第1地下水ポンプ盤取替 R5：第2地下水計装設備保守、第2地下水送水流量計取替 R6：第1地下水受変電設備取替 	A 【A】

取 組	K P I 重要業績評価指標	令 和 2 年 度 の 進 捗 状 況	評 価	
⑥適正な施設の維持管理				
安定供給のためのきめ細やかな点検の実施 【事業推進課、施設基盤整備室、総合管理推進センター】				
27	・保安規程・保守基準に基づいた計画的な点検の実施及び規程・基準の適宜見直し	点検件数 年度計画の100%実施	<ul style="list-style-type: none"> 運転保守基準に基づき、定期的な点検（914件）を実施した。 <p>【実績】点検件数：R2 914件 年度計画（914件）の100%実施</p>	A 【A】

			(R1) 937件) ・長期工事計画に基づき、日野谷発電所2号水車発電機改良及び内部点検手入れ工事など、予防保全に必要な改良及び修繕工事等を実施した。	
		規程、基準の見直し(適宜)	・設備の設置・更新状況、重要度・信頼性に基づき、保安規程、保守基準の見直しを行った。	A 【A】
平時における機能管理、発災後の速やかな機能回復 【事業推進課、総合管理推進センター】				
28	・対応マニュアル、連絡体制及び緊急時技術者派遣協定の適宜見直し	機器操作マニュアルや緊急時技術者派遣協定等の見直し	・「南海トラフ地震臨時情報」を踏まえた防災対応を構築するため、「企業局事業継続計画(BCP)」の見直しを行った。 ・災害及び緊急時の連絡体制を確保するため、「企業局防災計画の勤務時間外等緊急連絡系統図等」、「総合管理推進センター防災計画」等の見直しを実施し、周知に努めた。 ・発災時の応急復旧に備え、平成27年度に締結したダムゲート制御装置の応急復旧に係る協定書(2件)に基づく連絡責任者の確認を行った。(発災等緊急時の受入体制整備)	A 【A】

取組	KPI 重要業績評価指標	令和2年度の進捗状況	評価	
⑦工事、維持管理等の効率化及びSociety5.0の実装に向けた取組				
設備更新・修繕10か年計画の策定 【経営企画戦略課、事業推進課、施設基盤整備室、総合管理推進センター】				
29	・長期工事計画の策定(見直し)及び計画に基づく設備更新 【再掲、No.22】	電気、工水、駐車場事業の長期工事計画の見直し(2年ごと) 設備の更新	・「電気事業」について、長期工事計画の見直しを行い、R3年度からR12年度までの10ヶ年の長期工事計画を策定した。(工業用水道・駐車場事業は、R1年度に策定済み) 長期工事計画に基づき、実施した主な内容 ・電気事業では、日野谷発電所において水車発電機の改良及び内部点検手入れ工事を施工し、新品時の性能復元を図った。また、軸受を「メタル製」から「樹脂製」に変更することで、耐摩耗性及び保守性を向上させ、設備の信頼性向上につなげた。 ・吉野川北岸工業用水道では今切配水本管の耐震化を実施した(延長918m(R1~R2))。 ・R1年度に策定した工業用水道事業長期工事計画において判明した経営状況を考慮し、検討会を立上げ、経営改善に繋がる対策を検討した。今後、その結果をR3年度の計画策定に反映する。 ・藍場町地下駐車場では経営に支障をきたさないよう、老朽化した泡消火設備配管取替をH30年度から区画ごとに4ヶ年で実施している。	(A) 【A】 (A) 【A】
設計の最適化 【事業推進課、施設基盤整備室、総合管理推進センター】				
30	・初期投資と維持経費のトータルコストを考慮した効率的な設計	トータルコストを考慮した効率的な設計の実施	・日野谷発電所2号水車発電機改良において発電機軸受を新素材に変更することで、軸受摩耗量を100分の1に低減し、設備管理の省力化及び保守性の向上によるコスト削減を図った。 ・既設管を生かした管更生工法の採用により、管路更新経費節減を図った。	A 【A】
設備の機能維持、長寿命化 【事業推進課、施設基盤整備室、総合管理推進センター】				
31	・保安規程・保守基準に基づいた計画的な点検の実施及び規程・基準の適宜見直し 【再掲、No.27】	点検件数 年度計画の100%実施	・運転保守基準に基づき、定期的な点検(914件)を実施した。 【実績】点検件数：R2 914件 年度計画(914件)の100%実施	(A) 【A】

			(R1) 937件) <ul style="list-style-type: none"> ・長期工事計画に基づき、日野谷発電所2号水車発電機改良及び内部点検手入れ工事など、予防保全に必要な改良及び修繕工事等を実施した。 	
		規程、基準の見直し(適宜)	<ul style="list-style-type: none"> ・設備の設置・更新状況、重要度・信頼性に基づき、保安規程、保守基準の見直しを行った。 	(A) 【A】
「企業局のスマート化」の推進 【事業推進課、総合管理推進センター】				
3 2	<ul style="list-style-type: none"> ・設備の保守管理等にIoT、ビッグデータ、AI、ロボットなどの革新技術を実装・活用 	AIトラブルシューティング、異常予知システムの実装・活用	<ul style="list-style-type: none"> ・平成30年度にAIトラブルシューティングの支援システムを導入し、総合管理推進センターから各発電所施設の運転制御を継続的に支援した。 ・勝浦発電所に導入した「AI異常予知システム」により、AI分析に必要なデータ量の収集、蓄積を行っている。また、他設備における導入規模や条件等について情報収集するとともに、検討を進めている。 ・「企業局スマート化タスクフォース」により、各施設状況をモニタリングする固定カメラ、職員の安全性を高める水中ドローン、Wi-Fi・スマートフォンを利用した、Webカメラ付きヘルメットの配備を検討し、R3年度より計画的に導入することとした。 	A 【A】
		産学官との連携等で培ったノウハウを活かしたドローンの活用	<ul style="list-style-type: none"> ・日野谷発電所サージタンク等の施設点検に新たにドローンを活用した。(2件)また、衝突回避機能を有する空中ドローンの機能確認のため、壁面等で試験活用した。(1件)そのほか、水力発電施設点検用として、電力会社で運用されている「水面ドローン」の活用検討を行った。 ・R1年度に引き続き、ドローン操縦技能の取得のため、政策創造部が実施するUAV操作技能講習会に参加した。(修了者累計3名、1名受講中) 	A 【A】

経営目標3 経営力の強化

取組	K P I 重要業績評価指標	令和2年度の進捗状況	評価	
⑧未来を切り拓く人づくりと組織づくり				
新たな取組の推進に向けた組織体制の強化 【経営企画戦略課、事業推進課、施設基盤整備室、総合管理推進センター】				
33	・計画的な採用による人材補強	電気、機械職の継続採用枠の確保	<ul style="list-style-type: none"> ・R2年度は、電気職1名を採用した。 ・R3年度は、引き続き計画的な採用を実施し、人材補強を図るために電気職4名、機械職2名を募集している。 	A 【A】
34	・新たな課題に対応するための検討チームの設置	他部局及び若手職員を含めたタスクフォースを設置し、課題を検討 毎年実施	<ul style="list-style-type: none"> ・3つのTF（危機管理、広報・PR戦略、企業局スマート化）を設置し、R3年度の当初予算への反映を行った。 【実績】 TF設置・課題検討：R2 3件	A 【A】
企業局の新たな広報・PRの取組 【経営企画戦略課】				
35	・新たな時代に即した戦略的な広報・PRを通じた企業局への理解の促進	PR動画やエコバック等の制作・活用	<ul style="list-style-type: none"> ・「広報・PR戦略タスクフォース」において、PR動画をプロポーザル方式で制作することを検討し、R3年度当初予算への反映を行った。 ・オリジナルエコバックを1,000個制作し、活用方法を検討した結果、川口エネ・ミューにおけるイベント等での配布を行うこととした。 	A 【一】
技術伝承による現場力と技術力の強化 【経営企画戦略課、事業推進課、施設基盤整備室、総合管理推進センター】				
36	・若手職員育成、OJT、資格取得・研修	新規技術職職員に対する専門技術研修の実施	<ul style="list-style-type: none"> ・年度当初に「転入者（新採）研修」を実施するとともに、通年で「現場操作訓練」、「事故復旧訓練」を実施した。 ・日常業務の中で「現場での点検作業や工事監督を活用した職場内研修・教育（OJT）」を実施した。 ・電気主任技術者等の資格取得のための講習など「資格取得」や「技能研修」を実施した。 ・プレゼン能力の向上のため企業局技術発表会で8名が発表し、優秀者を表彰した。 	A 【A】
活発な人事交流による「幅広い視野」と「新たな発想」を持った人づくり 【経営企画戦略課】				
37	・他部局、他機関との積極的な人事交流	本局への新規配置年1名以上	<ul style="list-style-type: none"> ・本局へ電気職1名の新規配置を行った。 【実績】 本局への新規配置：R2 1名	A 【A】
		他部局等との人事交流の実施年1名以上	<ul style="list-style-type: none"> ・総務省（電気職1名）、市町村（那賀町、電気職1名）、環境首都課（電気職1名）、水・環境課（電気職1名）との人事交流を引き続き実施した。 【実績】 他部局等との人事交流：R2 4名	A 【A】
産官学での共同研究等による専門性のスキルアップ 【経営企画戦略課、施設基盤整備室】				
38	・大学、民間等との連携	職員スキルアップのための共同研究等	<ul style="list-style-type: none"> ・陸封アユ及び効果的な魚道について徳島大学と共同研究を行った。 ・陸封アユの稚魚を試験放流し、その生息状況の調査を行うとともに、アユの産卵に適した河川環境を構築するため、産卵場の整備を行った。 ・効果的な魚道の研究として、川口ダム直下で汲み上げ放流を実施した。 【実績】 大学、民間等との連携：R2 1件	A 【A】

現場からの業務改善の徹底によるコスト意識の醸成 【経営企画戦略課、総合管理推進センター】			
39	・業務と維持管理費等の効率化	現場職員と幹部職員との業務改善等に係る意見交換の実施 年2回以上	<ul style="list-style-type: none"> ・技術発表会において幹部職員に対するTF成果報告を10月22日と30日に実施した。 ・各TFメンバーに幹部職員が入り、検討会の中で意見交換を実施した。 【実績】 意見交換年2回以上：R2 2回（技術発表会）
			A 【A】

取組	KPI 重要業績評価指標	令和2年度の進捗状況	評価
----	-----------------	------------	----

⑨経営資源の有効活用

日野谷発電所の発電能力の最大限活用 【事業推進課、総合管理推進センター】

40	・日野谷発電所の最大取水量の弾力的運用による発電能力の最大限活用	最大取水量の弾力的運用	<ul style="list-style-type: none"> ・認可最大出力を超えない範囲における日野谷発電所の最大取水量の増量について、水利使用許可の変更手続き完了により、R3年度以降の発電電力量の増加が可能となった。（R3年4月15日から運用開始）
			A 【一】

電力システム改革への対応 【事業推進課】

41	・社会情勢等を見据えた最適な契約方法や国の動向を調査	各種会議等での情報収集、意見交換回数 3回以上/年	<ul style="list-style-type: none"> ・設備の機能維持に必要な費用の回収のため、電力システム改革により新たに創設された「容量市場」へ参加し、電力広域的運営推進機関と新たな契約を締結した。 ・他県の電力供給ブランドについて、担当者と協議（1回）を行い、情報収集を図った。 ・新たな電力供給ブランド創設に向けて、電力会社と協議（5回）を行い、協定を締結した。 【実績】 意見交換回数：R2 6回実施
			A 【A】

未売水の低減対策 【経営企画戦略課、総合管理推進センター】

42	・新規需要の開拓や雑用水としての利用拡大等による契約水量の増大	契約有収率 (契約水量/給水能力) ◎ 74% ◎ 75%	<ul style="list-style-type: none"> ・既存ユーザの増量見通しや要望について、アンケート調査を実施するとともに、企業訪問（5社）や電話による照会（7社）を実施したが、契約水量の増大に繋がらなかった。 【実績】 契約有収率：R2 73% (R1 73%)
43	・受水企業訪問（毎年）、アンケート調査によるニーズ把握	企業訪問回数15社以上/年	<ul style="list-style-type: none"> ・企業訪問を実施した。（5社） （うち局長のトップセールスによる企業訪問は2社） ・コロナ感染症の感染拡大を考慮し、新規需要の開拓として、電話による照会を行った。（7社） ・既存ユーザの増量見通しや要望について、アンケート調査を実施した。 【実績】 企業訪問15社以上：R2 12社
		アンケートの毎年実施	<ul style="list-style-type: none"> ・アンケート調査（例年実施分）を1月に実施した。（内容は基礎データ、回収水率） ・アンケートの結果、吉野川北岸工業用水道、阿南工業用水道の受水企業各1者の増量計画を確認した。 【実績】 アンケート実施：R2 実施
			B 【B】
			A 【B】

廃棄物の資源化 【経営企画戦略課、総合管理推進センター】

44	・ダムの流木、浄水発生泥土な	流木、発生泥土の	<ul style="list-style-type: none"> ・発生泥土226トンを民間業者へ売却し、園芸用土や漆喰の
			A

	どの有効利用	有償販売 利用率100%	原料として有効活用した。 ・流木陸揚整正量は、37トンを民間業者へ入札売却し、チップとして有効利用した。 【実績】利用率100%：R2 利用率100%	【A】
駐車場利用台数の確保 【経営企画戦略課】				
45	・駐車場利用者の利便性や安全・安心の向上等を図り、利用台数を確保	利用台数 20万台以上/年	・R1年度のアンケート結果等から、藍場町地下駐車場LED化や松茂駐車場キャッシュレス化を実施、使い捨てマスク無料配布キャンペーンを実施した。 ・徳島駅前デパートの撤退と新型コロナウイルス感染症の影響などにより、利用台数が減少した。 【実績】利用台数20万台以上：R2 利用台数98,741台	C 【-】
駐車場の利便性向上策 【経営企画戦略課】				
46	・他施設、イベント等との連携	キャンペーン等の実施 年2回以上	・使い捨てマスク無料配布キャンペーンを実施した。 ・カイト無料配布キャンペーンを実施した。 ・駐車場の1室を未来創生文化部と連携し、無償によりNPOビレッジとして活用した。 【実績】年2回以上：R2 2回（キャンペーン）	A 【B】
47	・顧客、バス会社等からの情報収集及び分析	高速バス利用状況の把握と対応の徹底	・毎月、松茂バス停留所のバス運行状況及び利用者数を情報収集した。 ・新型コロナウイルス感染症の影響による高速バス減便の影響により、利用台数が減少した。	A 【B】
リース契約地の売却 【経営企画戦略課】				
48	・契約企業への営業活動、他部局連携による情報収集	企業訪問による状況調査	・商工労働観光部と連携し、西長峰工業団地において全ての企業操業が実現した。	B 【B】
工業用水道会計への財政支援 【経営企画戦略課】				
49	・工業用水道会計の負担軽減による進捗の加速	電気、土地造成事業からの資金融通の実施	・R2年度は土地造成事業から4億円の資金融通を実施した。（借入額累計29億円 H24:2億、H27:9億、H28:9億、H29:5億、R2:4億、残債28億円）	A 【B】
資金の効率的運用 【経営企画戦略課】				
50	・有利な運用利率の確保と検討	効率的な資金運用の実施	・金利引合による短期定期運用（3ヶ月定期）により、最も安全かつ有利な資金運用を実施した。 ・資金の流動性確保に努めた。	A 【A】

取組	KPI 重要業績評価指標	令和2年度の進捗状況	評価	
⑩情報収集の強化				
制度改正等の情報収集・提案 【経営企画戦略課、事業推進課、施設基盤整備室】				
51	・制度改正、規制緩和への政策提言	政策提言の実施及び政策への反映	・7月の政策提言において、「工業用水道施設の強靱化の加速」について提言した結果、R3当初予算に一部が反映された。	A 【A】

顧客・利用者のニーズ調査 【経営企画戦略課】				
5 2	<ul style="list-style-type: none"> 受水企業訪問（毎年）、アンケート調査によるニーズ把握 <p>【再掲、No. 43】</p>	企業訪問数15社以上／年	<ul style="list-style-type: none"> 企業訪問を実施した。（5社） コロナ感染症の感染拡大を考慮し、新規需要の開拓として、電話による照会を行った。（7社） 既存ユーザの増量見通しや要望について、アンケート調査を実施した。 <p>【実績】 企業訪問15社以上：R2 12社</p>	(B) 【B】
		アンケートの毎年実施	<ul style="list-style-type: none"> アンケート調査（例年実施分）を1月に実施した。（内容は基礎データ、回収水率） アンケートの結果、吉野川北岸工業用水道、阿南工業用水道の受水企業各1者の増量計画を確認した。 <p>【実績】 アンケート実施：R2 実施</p>	(A) 【B】
5 3	<ul style="list-style-type: none"> 利便性向上、利用者ニーズ把握に係る駐車場利用者へのアンケート調査 	アンケートの実施年1,000人以上	<ul style="list-style-type: none"> 駐車場事業の指定管理者において、R2年4月～R3年3月の間、藍場町地下駐車場の利用者に対し、アンケート調査を実施した。 さらに、「県営駐車場アンケート事業」として、R2年5月～R3年3月の間、藍場町地下駐車場及び松茂駐車場の利用者に対し、新たなニーズの掘り起こしのため、R1年度から内容に工夫を加え、アンケート調査を実施した。 R1年度のアンケート結果等から、松茂駐車場のキャッシュレス化、藍場町地下駐車場のLED化を実施した。 <p>【実績】 アンケート1,000人以上：R2 1,241人</p>	A 【A】
ホームページ、フェイスブック等での意見聴取 【経営企画戦略課】				
5 4	<ul style="list-style-type: none"> SNS等の活用 	SNSフォロワー数50人以上増／年	<ul style="list-style-type: none"> 企業局SNSを継続し、R2年度にフォロワー数92人が増加した。 <p>【実績】 SNSフォロワー増加数：92人増（Twitterのみ）</p> <p>R2 Facebookアクセス数：7,682、Twitterアクセス数：112,562 Facebookフォロワー数：142、Twitterフォロワー数：519</p> <p>R1 Facebookアクセス数：14,146、Twitterアクセス数：60,918 Facebookフォロワー数：ー、Twitterフォロワー数：360</p>	A 【A】
経営情報等の開示 【経営企画戦略課】				
5 5	<ul style="list-style-type: none"> 第三者が行う会議やホームページでの開示とパンフレット・冊子の発行 	決算状況等を会議やホームページで開示毎年実施	<ul style="list-style-type: none"> 戦略的経営推進委員会で決算概要を開示した。 企業局ホームページで決算概要、財務諸表、予算概要を開示した。 	A 【A】